

## 全ての子供たちの可能性を引き出す「学習者主体」の授業づくり

### ～国語科学習の指導法から～

霧島市立溝辺小学校教諭	山口 智那	霧島市立隼人中学校教諭	松下 さやか
始良市立山田小学校教諭	生田 美津希	始良市立帖佐中学校教諭	鉾立 宅治
湧水町立栗野小学校教諭	榎 恭輔	湧水町立栗野中学校教諭	山里 陽子
霧島市立天降川小学校教頭	村山 明啓	始良・伊佐教育事務所主任指導主事	入佐 俊和

### 目 次

1	はじめに	2
2	中学校の授業実践	3
3	小学校の授業実践	4
4	実践のまとめ	5
5	おわりに	6

#### 引用文献、参考文献等

- 文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編』
- 文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編』
- 鹿児島県教育委員会（2023）『令和4年度鹿児島学習定着度調査について』  
[https://www.pref.kagoshima.jp/ba04/kyoiku-bunka/school/teichaku/documents/103251\\_20230310100240-1.pdf](https://www.pref.kagoshima.jp/ba04/kyoiku-bunka/school/teichaku/documents/103251_20230310100240-1.pdf)

## 1 はじめに

令和5年度の「始良・伊佐地区コアティーチャーネットワークプロジェクト」においては、全ての子供たちの可能性を引き出し、「学習者主体の授業」づくりを行うため、小学校、中学校それぞれの学びをつなげ、子供たちが継続的に力を伸ばしていくことができるよう、小・中学校国語科研究推進委員が連携・協働して、授業実践を行った。

### (1) 令和4年度鹿児島学習定着度調査から見える課題

#### ア 小学校児童と、中学校生徒の課題

	小学校	中学校
設問の概要	資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現することができるか。	目的や場面に応じて、社会生活の中から話題を決め、異なる立場や考えを想定しながら集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討することができるか。
県平均通過率	48.3%	58.9%
地区通過率	47.0%	58.0%

設問の内容から、小学校、中学校ともに、目的に応じて、文章と資料を結び付けるなどして、必要な情報を見付けることに課題があることが分かった。

#### イ 課題の設定

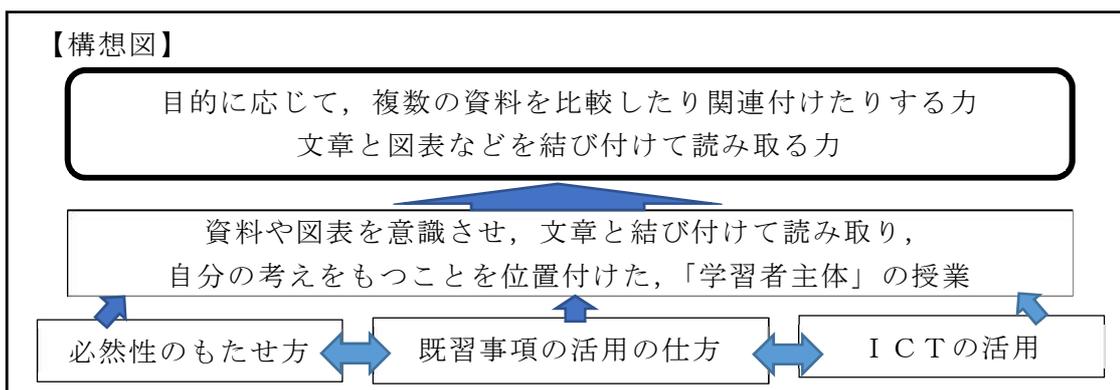
小学校、中学校の分析で見えた課題から、目的に応じて、複数の資料を比較したり関連付けたりする力や、文章と図表などを結び付けて読み取る力を伸ばすために、資料や図表を意識させ、文章と結び付けて読み取り、自分の考えをもつことをどのように位置付けるかを意識した授業づくりを行った。

### (2) 授業づくりの視点

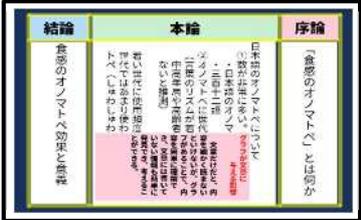
「学習者主体の授業」を実現するために、以下の視点を設定し、取り組んだ(表1)。

表1 「学習者主体の授業」づくりの視点

必然性のもたせ方	既習事項の活用の仕方	I C Tの活用
<ul style="list-style-type: none"> <li>身に付けさせたい力のゴールに向けた、言語活動や学習計画の設定</li> <li>学ぶ必然性をもたせるための、意図的な学習課題やめあての仕掛け</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の考えをもたせやすくしたり、筆者の意図を深く考えたりできるようにするために、既習事項を振り返る場面の設定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子供の思考を整理しやすくしたり、短時間で多様な考え方に触れたりできるようにするためのロイロノートの活用やワークシートの工夫</li> <li>学んだことを共有したり、次時の学習に生かせるようにしたりするために、ロイロノートを活用した振り返り</li> </ul>



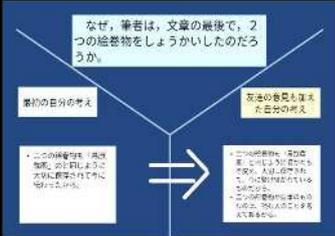
2 中学校の授業実践（読書の広場「食感のオノマトペ」3／4）

過程	時間	主な学習内容・活動	主な発問・指示	○ 留意点 ◎ 評価(方法)
導入	2分	1 前時までの学習を振り返り、課題意識をもつ。	○ 前回の授業では、本論における「オノマトペの特徴」をまとめました。	○ 単元の流れ、本時の学習活動とゴール(身に付けるべき力)を把握できるようにする。
	3分	2 本時の学習目標と学習計画表を確認し、見通しをもつ。  <div data-bbox="284 528 730 640" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     グラフがあることで、文章にどのような影響を与えているか考えよう。                 </div>	○ これまでの授業では、テキストだけの「食感のオノマトペ」を読んできましたが、教科書を開いて気付くことはありませんか。	○ 前時の授業で作成したカードを提示し、本論の内容を扱うことをおさえる。  ◎ 主体的に学習に取り組む態度(ワークシート)
展開	8分	3 教科書の中のグラフを見て、読み取れることを書く  	○ 本論の中でグラフに対応しているテキストはどこでしょうか。 ○ テキストに線を引きながら読み取れることをまとめましょう。	○ 箇条書きでワークシートにまとめさせる。 ◎ 思考・判断・表現(ワークシート) ○ グラフに対応するテキストに線を引かせる。
	13分	4 ワークシートにまとめたことをグループで共有する。  	○ 教科書のグラフが円グラフだった場合、読者はどのように感じるでしょうか。	○ エラーモデルを示し、筆者が用いたグラフの効果や意図について考えさせる。
	14分	5 グループで共有したことを発表し、グラフが文章に与える影響についてまとめる。	○ 前回の授業で作成したカードに、グラフが文章に与える影響を書き込み、提出しましょう。	○ 発表を聞き、考えたことや気付いたことをロイロノートで提出させる。 ◎ 思考・判断・表現(ICTの活用)
終末	5分	6 学習のまとめを行い、次時の学習の確認をする。  	○ 今回の授業では、グラフが文章に与える影響についてまとめました。 次回は、本時でまとめたカードを活用して筆者の主張を要約します。	○ 次時の見通しをもたせることで意欲をもたせる。 ○ 生徒が作成したカードを大型テレビに映しながら振り返りを行う。 ◎ 思考・判断・表現(ICTの活用)
	5分	7 他のグループの発表を聞き、振り返りを行う。		

エラーモデルとして提示した円グラフ

ロイロノートを活用した学習のまとめ(ICTの活用)

3 小学校の授業実践（表現の工夫をとらえて読み，それをいかして書こう『鳥獣戯画』を読む）「日本文化を発信しよう」5/11）

過程	主な学習活動と児童の予想される反応	時間	主な教師の手立て
つかむ・見通す	<p>1 単元の目標を確認し，見通しをもつ。</p> <div data-bbox="284 331 837 488" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>A L Tの先生に日本文化を紹介するためには，どのようなことを意識して紹介するとよいだろう。</p> </div> <p>2 前時までの学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>主張を伝えるために，表現の工夫がたくさんあったよ。</li> </ul>	<p>(分)</p> <p>5</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>単元全体の目標を確認し，本日の学習を行う<b>必然性</b>をもつことができるようにする。</li> <li>前時までの筆者の主張や文章中に出てきた表現の工夫について確認し，本時の学習を進める際に，想起できるようにする。(既習事項の活用)</li> </ul>
調べる・深める	<p>3 問題提起を行い，本時のめあてを立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>どうして『鳥獣戯画』以外の絵巻物が載っているのだろうか。</li> </ul> <div data-bbox="284 801 837 913" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>なぜ，筆者は，文章の最後で，二つの絵巻物をしょうかいしたのだろうか。</p> </div> <p>4 自分なりに二つの絵巻物が載っている理由を考える。</p> <div data-bbox="300 1003 614 1093" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>他の絵巻物も紹介したかったからかな。</p> </div>  <p>5 筆者の主張を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>筆者は『鳥獣戯画』を「国宝であるだけでなく人類の宝」だと表現していたね。</li> <li>海外の人にとっても価値があるということだね。</li> </ul> <p>6 近い年代の海外の絵を提示し，筆者が海外の絵ではなく，日本の絵巻物を載せた理由を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日本のよさを伝えたいからかな。</li> <li>読み手である私たちを意識して，筆者は資料を選んだのかもね。</li> </ul>  <p>マサッチオ『真の銭』</p>	<p>30</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料『鳥獣戯画』と同じ時代に生まれた絵巻物」に注目し，「教科書に掲載しなくてもいいのではないか。」と発問することで，資料を掲載した意図を考えることができるようにする。</li> </ul> <div data-bbox="1018 936 1359 1265" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">  <p>児童の考えの変遷 (ICTの活用)</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>「海外の絵を資料として掲載してもいいはずなのに，なぜ筆者は日本の絵巻物を二つ掲載したのだろう。」と発問することで，筆者の意図に迫ることができるようにする。</li> </ul>
まとめる	<p>7 本時のまとめを行う。</p> <div data-bbox="284 1653 837 1798" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>文章の最後の二つの絵巻物は，読み手を意識して，筆者の主張をよりくわしく伝えるためにある。</p> </div> <p>8 振り返りを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>〇〇さんと学習したから，筆者が二つの絵巻物を紹介した理由を考えることができた。</li> <li>自分たちがパンフレットを作る時も，読み手を意識して資料を選びたい。</li> </ul>	<p>10</p>	 <p>自分の言葉でまとめる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①これからの学習にどう生かしたいか，②どのような学習方法を行ったら，学習内容を理解することができたか，の2つの観点のうちどちらかを選んで振り返りを行う。</li> </ul>

#### 4 実践のまとめ

##### (1) 実践の成果と課題

小中学校での実践を通して、次のような成果を得ることができた。

###### 成果1（中学校）

- ① 発問の工夫が、生徒たちの主体的な学習につながった。
- ② ICTとワークシートの両方を活用し時間を確保できた。
- ③ 本時までグラフを提示しなかったり、エラーモデルを提示したりすることで、教科書のグラフの必要性や効果について深い学びにつなげることができた。

###### 成果2（小学校）

- ① Yチャートなどのシンキングツールを利用することで考えをアウトプットしやすく効果的であった。
- ② ICT活用をすることで友達の考えを基に自身の考えを強固・付加・修正させることができた。
- ③ 考えを深めるための資料提示ができた。  
また、次のような課題も得ることができた。

###### 課題1（中学校）

- ① エラーモデルの検討が必要であった。円グラフと棒グラフでは単純な比較ができないこともあった。
- ② 展開部分においてグラフの読み取りをする際の視点を明確にするべきだった。読み取りの時間を確保できなかった。

###### 課題2（小学校）

- ① ICT活用と話し合い活動の比率（個別最適な学習と協働的な学習とのバランス）がとれなかった。
- ② 本文と資料との照らし合わせ（資料について考える際の「根拠」としての本文）が不十分だった。



##### (2) 課題を踏まえての新たな指導案の模索

令和5年11月30日に開催した令和5年度「始良・伊佐地区スキルアップセミナー」の中で成果と課題を発表した。その後、参加者によるワークショップで、今回挙げられた課題を解決するための新たな指導案の一部をグループごとに作成してもらい、発表、意見交換を行った。4つの班による指導案の概要は次のとおりである。

ア 『鳥獣戯画』を読むの指導案「課題：ICTの活用／資料とテキストの工夫」  
導入 筆者の主張を押さえ直す。（前時の復習だけでなく、本時とのつながりを意識した伝え方をする。）→資料が必要・不必要で立場を分ける。（不要でまとまってしまった場合は教師側が修正していく必要あり。他に必要な資料があるか考えさせ、調べさせるなど。）→展開 ICTで打ち込む画面を色分けし、話し合い活動をさせる。議論することに集中させるため、記録係1人のみがタブレットに入力する。後半でテキストと図表について触れる。図のない文から必要性に気付かせる。（最終的に叙述に戻るようにする。）

イ 『鳥獣戯画』を読む』の指導案「課題：ICT活用と話し合い活動の比率」

**導入**教科書の資料と海外の資料を両方見せる。(両方始めに見せることで、なぜこの資料がよかったのかを考えるきっかけ、必然性をもたせる。)→**展開**どちらの資料がよいか根拠を基に自分一人で考える。(根拠は本文中から見付ける。説明できるようにするという発問の工夫をする。)→グループで練り合う。

ウ 「食感のオノマトペ」の指導案「課題：文章とグラフを照らし合わせて読み取る効果的な手立て」

**導入**この説明文には、どのような資料があればよいだろうかと問う。(図・グラフ・写真など。グラフの取捨選択ではなく、様々な図表から最適解を見いだす。伝えたいことの目的に合わせたものを選ぶ必要性を学ばせる。既習事項として、それぞれの図表にはどんなよさがあるのかを押さえた上で、自分の意見をもたせるのもよい。)→**展開**複数の図表から説明文にふさわしいものを選び、理由を考える。→意見を共有する。→教科書の中のグラフを提示し、なぜ適切なものか、グループで本文と照らし合わせて考える。

エ 『鳥獣戯画』を読む』の指導案「課題：ICT活用と話し合い活動」

**導入**グループに絵を配る。→**展開**ロイロノートを使い、自分で選択させ、意見をもつ。(意見を打ち込むかノートに書くかは、自分で選べるようにする。)→グループで話し合う。(タブレット数を減らし、使用機会を精選する。顔を見ながら話す時間を確保する。)→意見が異なる人を探して交流する。(話し合いがより深まり、理由も伝え合える。)

それぞれの班が課題に焦点を当て、知恵を絞ることで、プロジェクト研究推進委員だけでは生まれなかった新たなアイデアを創造、共有することができた。



## 5 おわりに

今回、始良・伊佐地区コアティーチャーネットワークプロジェクトでは、「目的に応じて複数の資料を比較したり関連付けたりする力や文章と図表などを結び付けて読み取る力」という共通課題を掲げ、小・中学校の垣根を越えて「学習者主体の授業」づくりに取り組んだ。さらに、「スキルアップセミナー」において、その成果と課題を参加者と共有し、新たな指導法の検討も行うことができた。これからも、小・中学校が連携・協働して国語の力を伸ばしていきたい。